厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

HIV 医療と精神科医療の連携に関与する看護・福祉・心理職の技術共有とネットワーク構築に関する研究

研究分担者　仲倉　高広　京都ノートルダム女子大学講師
研究協力者　山口みなみ（北海道大学病院）、佐藤華絵（仙台医療センター地域医療連携室）、横尾ゆかり（新潟大学医歯学総合病院）鳥越彩英子・川端まみ（石川県立中央病院　患者総合支援センター）、高橋昌也（ACC）、坂本知謙（名古屋医療センター　医療相談室）、岡本学（大阪医療センターHIV 地域医療支援室）、重信英子・中島幸徳（広島大学病院　エイズ医療対策室）、首藤美奈子・大里文誉（九州医療センター　AIDS/HIV 総合治療センター）、大山泰宏（放送大学）、荒木浩子（追手門学院大学）、大澤尚也（京都桂病院）、市原有希子（神戸女学院大学）、小山智朗（京都先端科学大学）、清水亜紀子（京都文教大学）、高橋紗也子（京都府立医科大学付属病院）、田中史子（京都先端科学大学）、中野祐子（帝塚山学院大学）、野田実希（大阪樟蔭大学）、山崎基嗣（京都文教大学）、山本喜晴（関西国際大学）、世界エイズデイ・メモリアル・サービス運営有志

研究要旨　精神科との連携を促進するため MSW を対象にした研修会を企画し、その運営を通じ、MSW の価値を軸に留意事項を集約した．その結果「解決すべき参加者の課題」などに整理ができた．「ソーシャルワークの価値」を基準に記述することで、MSW 独自の思考の過程を他の専門職と共有することが可能になると考えられた．

また、カウンセリングの効果評価指標について、中断事例を検討した結果、危機のフェイズは序盤と終盤にあった．また投映描画法の検討より、HIV 陽性者が、カウンセラーとの関係について言及している場合でも、HIV 陽性者自身の自己とのかかわりについて言及しているなど見受けられた．よって、評価指標は、①多層的に、②中断危機フェイズの通過を経るかどうか、③精神医学上の問題やクライエントの訴えの変化に限らず、④問題を多層的にとらえ、⑤対人関係のみならず対象関係の視点が重要と考えられた．

A. 研究目的

研究Ⅰ：入院等他施設の精神科医療と HIV 医療の連携に際し、介在する看護・福祉・心理職の連携技術を明確にし、その共有やネットワークの構築を目指す．

研究Ⅱ：カウンセリングの効果評価を行うことに適している指標を抽出することを目的とする．

B. 研究方法

研究Ⅰ：ACC およびブロック拠点病院勤務の福祉職を対象に、研究の趣旨を説明し、協力を求め、協力の同意が得られたメンバーを構成員とし、精神科連携についてミーティングを月に一度、オンラインにて開催し、作成したチェック票を用いた研修会企画運営を通し、「MSW ならでは」の視点による企画・実施に関する留意事柄を集約した．

研究Ⅱ：オンラインによる、中断事例の試行的カウンセリングの過程の分析、および全事例の投映描画法の分析をディスカッションにて行った．

（倫理面への配慮）

オンラインによる開催のため、文書と口頭で、1. 会議内で患者様の対応等を話題にする場合は、個人が特定される情報などは伏せ、必要最低限の情報で検討を行う. また、会議内で知り得た患者様の情報は守秘を厳守する. 2. 個人情報保護が徹底できるオンライン参加環境に留意する. 3. オンラインの会議は録画・録音は行わない. 4. 以上に記載している以外にも個人情報の取り扱いには十分配慮を行うこととした. 研究Ⅱに関しては京都大学、および京都橘大学の倫理委員会の承認を得て実施している.

C. 研究結果

研究Ⅰ:全ブロック拠点病院・ACCのMSWは9施設12名であった. 2時間のミーティングを計12回行った. 九州医療センター共催で行われたMSW対象の研修会を企画し、その運営を通じ、MSWの価値を軸に留意事項を集約した. その結果「解決すべき参加者の課題」などに整理ができた. 「ソーシャルワークの価値」、「講義/演習の目的」、「テーマ背景/理解ポイント」、「企画者として目標達成のために実施したこと・方法」、「研修後に得られる参加者の行動変容」、「実施者」を軸にまとめることができた.

研究Ⅱ:終結事例1事例、および中断事例1事例について、それぞれ6時間のディスカッションを重ね、質問紙法、文章完成法、投映描画法、面接での言動、および身体症状といったクライエントの多層的なメッセージ(表現)は時に相反するようなものも含まれていた. HIV陽性者はカウンセラーとの関係を言及するも、HIV陽性者自身の中の自己との関係について言及している可能性が考えられた. コロナにより面接の間隔が不定期になり中断になったと考えられた. 面接の初期(5回以内)と、終盤(20～25回)の中断事例があり、試行カウンセリングの継続の危機のフェイズは2回あった.

HIV陽性者が、カウンセラーとの関係について言及している場合でも、HIV陽性者自身の自己とのかかわりについて言及しているダブルミーニングの可能性が考えられた.

D. 考察

研究Ⅰ:MSW独自の思考の過程を他の専門職と共有することが可能になると考えられた. MSWの視点・価値で研修マニュアルの作成を完成させ、MSWの思考の過程を、「ソーシャルワークの価値」を基準に記述することで、MSWの機能やMSW独自の思考の過程を他の専門職、および他の領域のMSWと共有することが可能になると考えられる. 本研究では、MSWの思考の過程や価値の明確化を図っており、学際的、社会的意義は大きいと考える.

研究Ⅱ:よって、カウンセリングの効果の評価は、クライエントの変化を多層的に評価すること、および中断危機フェイズの通過を経るかどうかの視点が重要であると考えられる. 効果の評価の指標を精神医学上の問題やクライエントの訴え(意識上の問題)の変化に限らず、クライエント自身やクライエントの問題を多層的にとらえた指標を選定する必要であると考えられる. またHIV陽性者とカウンセラーとの関係に関する評価の項目に加え、関係の在り様も多層的・多義的に、つまり、対人関係ではなく対象関係の現れとして評価することや、中断のリスクのあるフェイズを通過できるかどうかといった指標も大切であろう.

E. 結論

研究Ⅰ:「ソーシャルワークの価値」を基準に研修会企画を整理することで、MSW独自の

思考の過程を他の専門職と共有することが可能になると考えられた.
研究Ⅱ:評価指標は、①多層的に、②中断危機フェイズの通過を経るかどうか、③精神医学上の問題やクライエントの訴えの変化に限らず、④問題を多層的にとらえ、⑤対人関係のみならず対象関係の視点が必要であろう.

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし.

2. 学会発表

・荒木浩子、山﨑基嗣、高橋紗也子、市原有希子、大澤尚也、清水亜紀子、田中史子、仲倉高広、野田実希、山本喜晴、小山智明、中野祐子、大山泰宏.HIV 陽性者の理解にかかわる表現の多層性－描画を中心とした多面的指標を手掛かりに－.日本箱庭療法学会 第 35 回大会(鳴門).2022 年 10 月
・重信英子、首藤美奈子、大里文誉、田邉瑛美、岡本学、高橋昌也、三嶋一輝、山口みなみ、北村未季、佐藤華絵、青野加奈子、鳥越彩英子、川端まみ、窪田和世、横尾ゆかり、豊永ひかり、中嶋幸徳、築山芽生、中津千恵子、堤千尋、仲倉高広. エイズ診療ブロック拠点病院等ソーシャルワーカー情報交換会の開催意義と役割. 日本エイズ学会第 37 回大会、2023 年、京都.
・清水亜紀子、山本喜晴、荒木浩子、市原有希子、大澤尚也、高橋紗也子、田中史子、仲倉高広、野田実希、山﨑基嗣、小山智朗、中野祐子、大山泰宏. 死から老いを生きることへと変容した HIV 陽性者とのカウンセリング. 日本心理臨床学会第 42 回大会、2023 年、横浜.

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし